誰にでも使いやすい配慮のある外来トイレやサインなどを整備。





新しくなった市民医療センター。1971年に建設された旧市民医療センターが生まれ変わった。

【戸田市立市民医療センター 新診療棟】

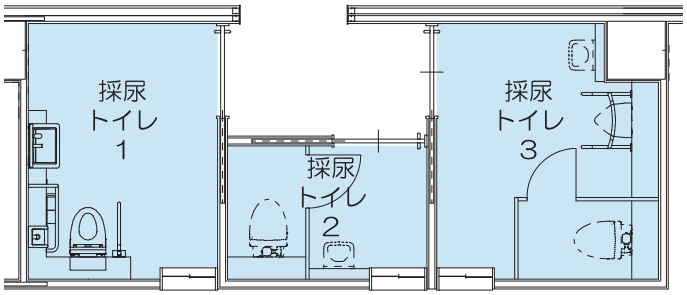
- ●竣工年月／2014年1月
- ●所在地／埼玉県戸田市美女木4-20-1
- ●施主／戸田市
- ●設計・監理／株式会社 日総建
- ●施工／三ツ和総合建設業協同組合
- ●病床数／19床

1Fの外来に設けられた、男性用・女性用・多目的トイレが並んでいる採尿トイレ（下の図面参照）。車いすでも使いやすいゆとりある広さの多機能トイレ（図面:採尿トイレ1）には、採尿用の窓のほか、手すりや背もたれ、ベビーシートなどが設置されている。

市民医療センターと老健施設の再整備によってさらに地域住民の「安心」を支える拠点へ。

市民医療センターと介護老人保健施設が一体となった戸田市立市民医療センターは、同じ敷地内で施設の整備を進め、2014年4月に、先行して新しい診療棟がオープンしました。今までの老朽化した診療棟を取り壊し、老健施設の増改築によってフルオープンするのは2016年度の予定。かけがえのない市民の「安心」を支える拠点が、さらに充実します。

新しい診療棟の大きな特徴は、誰にでも分かりやすく使いやすいこと。トイレもサインを、壁、突き出し、床の3ヵ所に設け、壁や突き出しのサインには厚みをつけて視認性を高めるなど、利用者のことを考えた優しい工夫が施されています。





温かみのある木質感を生かした、穏やかで癒される外来ロビー。利便性に配慮して、外来機能を1Fのワンフロアに集約し、総合・診療・検査・健診などの各待合を一体で構成している。



外来のすべての診察室には、水はねが少なく使いやすいスタッフ用手洗器が設置されている。



メッセージが直感的に伝わる、シンプルで誰にでも分かりやすいサイン。



病室は2Fに集約。病棟の独立性を高め、管理のしやすさも実現している。4床室はすべて南向きの明るい空間で、広い窓からは公園の緑を楽しむことができる。床材は巻き上げてそのまま腰壁にしているので、清掃メンテナンスがしやすい。

Voice 設計担当の方からの声

優しい空間の中に、機能性も盛り込んでいます。



株式会社 日総建
開発設計本部 設計部
主幹
櫻井成行さん

設計の大きなポイントは、医療センターを3階建てではなく、利用者が迷わずに使いやすい2階建てにすることでした。2フロアにまとめて床面積を減らすことは、動線を短くすることにもつながります。建物のプランニングも、立体的なサインも、とにかく分かりやすくてシンプルなものにしていますね。戸田市が考える「安心・安全で安定した医療サービスの提供」を実現できる施設にしたいと考え、暖色系や木質感を生かしながら、ふんわりした優しさを表現しました。また、清掃のしやすさを考えて簡単に拭ける素材を用いたり、フローリング風の塩ビタイルの下地に10mmほどのクッション性のあるシートを入れて転倒対策をはかるなど、機能性や安全性についても配慮しています。